

2022 年度
創発的研究支援事業 年次報告書

研究担当者	福田治久
研究機関名	九州大学
所属部署名	大学院医学研究院
役職名	准教授
研究課題名	健康データ創発的多地域コホート研究基盤の構築
研究実施期間	2022 年 4 月 1 日～2023 年 3 月 31 日

研究成果の概要

本研究プロジェクト（LIFE Study）は、自治体が保有する保健・医療・介護・行政等の健康関連データを住民単位で統合したデータベースを構築し、今後 20 年間にわたり追跡評価することで、ライフコース健康学を創出するものである。健康の関連要因・健康の波及効果の解明、データサイエンスに立脚した Evidence-Based Health Policy の変革、ヘルスケア産業における開発プロセス革新などを通じて、健康寿命延伸と健康格差解消に向けた創発的研究成果を産出することをめざしている。

2022 年度においては、LIFE Study 参加自治体を 28 自治体へ拡大し、2022 年 3 月分までの保健・医療・介護・行政等の健康関連データを収集し、個人単位で統合したデータベースを構築した。2022 年度は、住基台帳をも追加可能にしたことで、出生・転入・転出・死亡に関する情報精度を一段と高めることに成功した。他に類をみないユニークなデータベース事業であることから、2022 年度からは、LIFE Study を基盤とした創発的研究事業として、「AMED 循環器疾患・糖尿病等生活習慣病対策実用化研究開発事業」が研究開発代表者として採択された。また、LIFE Study を活用した分担研究者として「厚労科研：循環器疾患・糖尿病等生活習慣病対策総合研究事業」、「厚労科研：障害者政策研究事業」、「文部科研：基盤研究(B)」2 件、「文部科研：基盤研究(C)」1 件もまた 2022 年度から開始されている。

さらにライフコース健康学を創出するために、14 の学術機関と覚書を締結し、LIFE Study データベースを提供している。2022 年度に LIFE Study を用いた共同研究プロトコルは 73 件が提出されており、現在多数の共同研究が行われている。2022 年度に論文発表 10 件、学会発表 18 件を報告した。

また、Evidence-Based Health Policy への展開例として、1 自治体において 2030 年までの SDGs ビジョンにおいて LIFE Study の活用が掲げられている。

本研究は外部研究機関との共同研究が飛躍的に増加しており、2023 年度以降もライフコース健康学に関する研究成果を多数創出できると期待される。